



基本計画

北海道

目 次

第1章 開催概要

1	全国育樹祭の目的	3
2	開催方針	3
3	大会テーマ	5
4	シンボルマーク	5
5	ポスター原画	6
6	行事開催場所等	7

第2章 式典行事計画

1	基本的な考え方	8
2	式典行事の概要	8
3	式典会場整備	10
4	おもてなし広場	11

第3章 お手入れ行事計画

1	基本的な考え方	12
2	お手入れ行事の概要	12
3	お手入れ会場整備	13

第4章 育樹等行事計画

1	基本的な考え方	14
2	育樹等行事の概要	14

第5章 レセプション計画

1	レセプションの概要	15
---	-----------	----

第6章 併催行事計画

1	育林技術交流集会	16
2	全国緑の少年団活動発表大会	16

第7章 記念行事計画

1	森林・林業・環境機械展示実演会	17
2	国民参加の森林づくりシンポジウム	17
3	その他の記念行事	17

第8章 運営計画

1	基本的な考え方	18
2	実施本部計画	18
3	緊急対応計画	18
4	参加者行動計画	18
5	受付計画	19
6	宿泊・輸送計画	20
7	式典参加者計画	21
8	警衛・警護計画	21
9	救護・衛生計画	21
10	消防・防災計画	22
11	昼食計画	22
12	大会用品等配布計画	22
13	リハーサル計画	23
14	雨天・荒天時等対応計画	23

第9章 広報・協賛計画

1	基本的な考え方	24
2	広報・PR	24
3	記録	24
4	協賛	24

第10章 開催準備計画

1	開催スケジュール	25
---	----------	----

1 全国育樹祭の目的

全国育樹祭は、過去の全国植樹祭において天皇皇后両陛下がお手植え・お手播きされた樹木の皇族殿下によるお手入れや、参加者による育樹活動等などを通じて、国民の森林に対する愛情を培うことを目的とした国民的なシンボル行事で、昭和52年以来、毎年秋期に開催されています。

2 開催方針

森林は、水を蓄え、豊かな生態系を育み、自然災害から守るなど、私たちの暮らしや生活に欠かすことのできない大きな存在です。そして私たちは、先人たちが植え、育てた森の恵みとして、木材を住宅や家具、食器、遊具などの生活の一部に利用してきました。そのため、その森に再び木を植え、育て、次代の子どもたちに引き継いでいかなければなりません。

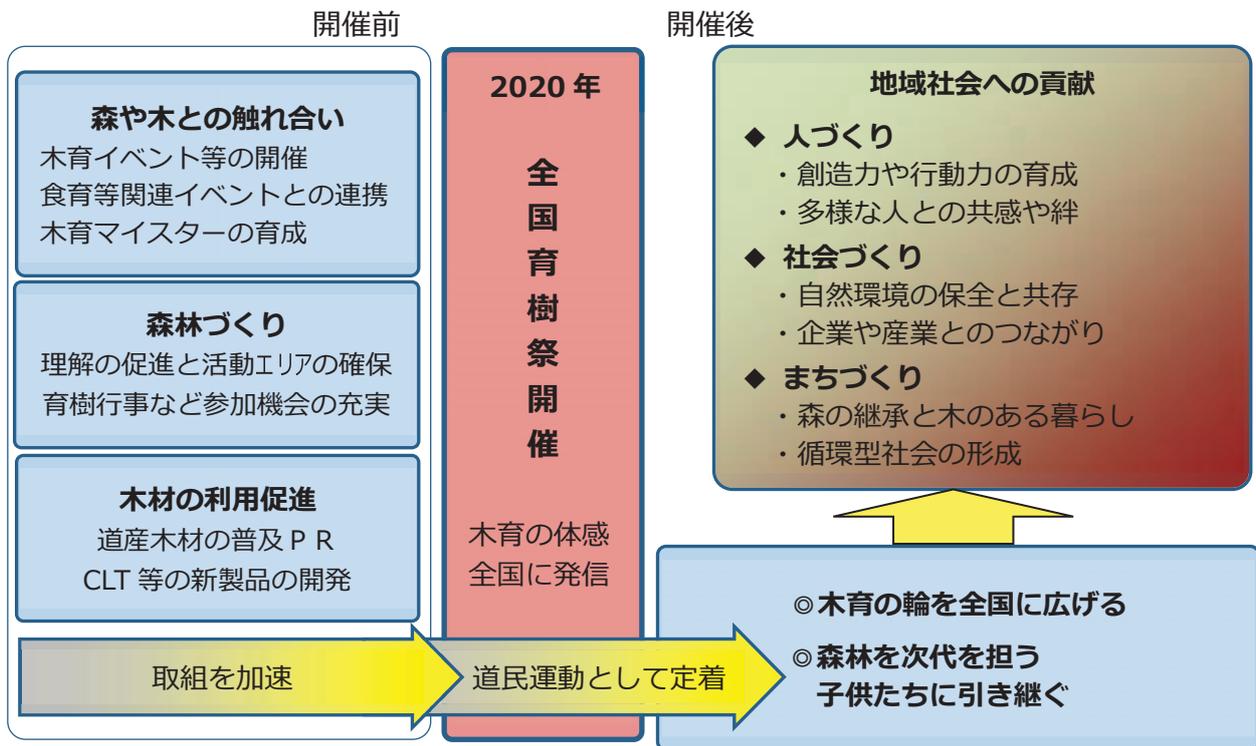
北海道は、その森林が私たちにもたらす恩恵や、木の持つ優しさ・温もりに触れ親しむことを通じて豊かな心を育む取組「木育」の発祥の地で、これまで、「北海道植樹祭」をはじめ、市町村、漁業協同組合などの多様な主体による植樹・育樹活動など、道民との協働による森林づくりが進められてきたほか、森林や木と触れ合う様々な木育イベントなどの普及の取組を行ってきました。

全国育樹祭は、参加者に対して枝打ち等の育樹活動を通じて継続して森を守り育てていくことの大切さを伝える行事で、北海道が進める木育の理念にも合致し、本道での開催は、その木育の取組を加速させるものです。また、育樹祭の開催年には、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることから、これと併せ、木の良さや価値を発信する絶好の機会となるものです。

このため、木育の取組を道民一人ひとりに浸透し、道民運動として定着させていく。そして、木の良さや価値はもちろん、豊かな自然や景観、歴史や文化、新鮮でおいしい道産食品など、本道の魅力をおもてなしの心で伝え、全国に広く発信していくことを目指すこととし、環境や教育のほか食育など幅広い関連行事等と連携しながら、より多くの方々に森や木と触れ合う機会を創出するほか、開催後においても、全道各地で育樹活動や木育イベントなどの取組が継続され、全国へと取組の輪を広げていく契機となる大会とします。



全国育樹祭の開催を契機とした木育等の展開



第58回全国植樹祭(北海道)の開催概要

道内では46年ぶり2回目となった第58回全国植樹祭は、平成19年6月24日に「明日へ 未来へ 北の大地の森づくり」を大会テーマとして、苫小牧市字静川(苫小牧東部地域「和みの森」)において、天皇皇后両陛下によるアカエゾマツやミズナラなどのお手植えのほか、全国から約1万人の参加者が集い、記念植樹などが行われました。



※ 過去の全国緑化行事開催概要(1巡目)

行事名	第12回全国植樹祭	第11回全国育樹祭
開催日	昭和36年5月24日	昭和62年9月13日～14日
会場	支笏湖畔(モーラップ地区)	支笏湖畔、野幌森林公園
大会テーマ	積雪寒冷地の拡大造林と屋敷林の造成	植えた夢 つないで育てて 森づくり

3 大会テーマ

つなごう未来へ この木 この森 この緑

作者 いけなが 池永 かずひろ 一広 さん（大阪府高槻市）

（講評）

植えた木が育樹活動を通して大きく育っていく時の流れが感じられる作品で、一本の木や森、そして緑を育む心の大切さがうまく表現されています。

多くの人に語りかけていくメッセージとして、豊かな北海道らしい森や緑を未来（次世代の子供たち）にバトンタッチしていく力強さが感じられます。

4 シンボルマーク



作者 しおざき 塩崎 えいち 榮一 さん（大阪府大阪市）

（講評）

北海道の地形と、北海道らしい豊かな森林をモチーフとした、優しい笑顔の少年が描かれた作品です。

右手で力強く育樹活動を行い、育てた森や緑を育む心を、大きく伸ばした左手で未来につないでいこうとする姿は、大会テーマとの相性も良く、森林に対する愛情が感じられます。

5 ポスター原画



作者 おおみち 大道 ひな さん（深川市立深川中学校3年[応募時]）

（講評）

働く元となる人の手で双葉を育てる構図や、色の調和も優れており、太い幹や緻密に描かれた小さな葉は、ポスターにした時に明るく、力強く感じられる作品です。

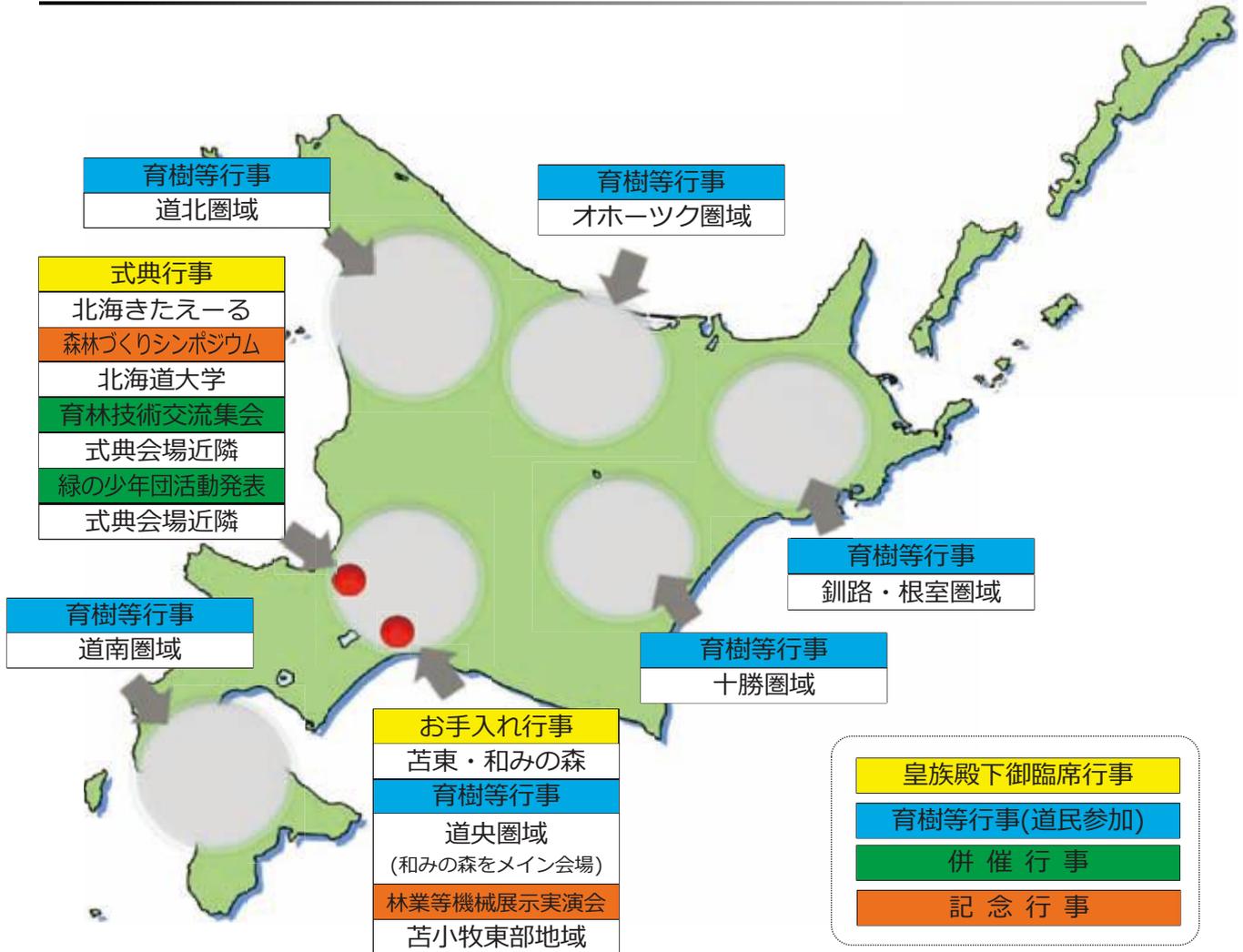
光が象徴的で、未来につながるイメージは、大会テーマとの相性も良く、育樹祭の開催気運を盛り上げるポスターとしてふさわしいと言えます。

○ 各作品の応募・入選状況

部 門	募 集 期 間	入 選 数
大会テーマ	平成30年7月13日 ～8月31日	最優秀 1点、優 秀 3点
シンボルマーク	平成30年7月13日 ～8月31日	最優秀 1点、優 秀 3点
ポスター原画	平成30年5月1日 ～8月31日	最優秀 1点、優 秀 5点、佳 作 10点

- ・大会テーマやシンボルマークは、全国から多くの作品の応募をいただきました。
- ・各部門において、厳正な審査を行い、入選作品を選考・決定しました。
- ・ポスター原画については、(公社)北海道森と緑の会が実施する緑化活動啓発作品のポスター原画と兼ねて募集し、選考しています。

6 行事開催場所等



【行事日程のイメージ】

令和元年(2019)	令和2年(2020)		
	式典前日	式典当日	式典翌日
<p>国民参加の 森林づくり シンポジウム (10/12)</p> <p>育樹等行事 (R元秋~R2秋)</p>	<p>お手入れ行事</p> <p>レセプション</p> <p>育林技術交流集会</p> <p>全国緑の少年団 活動発表大会</p>	<p>式典行事</p> <p>森林・林業・環境機械展示実演会</p>	

1 基本的な考え方

式典行事は、第44回全国育樹祭の大会テーマ「つなごう未来へ この木 この森 この緑」に込められた思いを参加者に分かりやすく伝えるとともに、多くの参加者に北海道の「木育」を体感してもらい、その意義を全国に発信します。

また、簡素化を図りながらも、厳粛で品格のある行事とすることとし、参加者の記憶に残る北海道らしいメインアトラクションを企画するほか、新鮮でおいしい道産食品等を堪能できるおもてなし広場を設け、森林・林業関係者、緑の少年団、一般公募者など、幅広い方々が全国から参加できる行事とします。

2 式典行事の概要

(1) 開催日

令和2年(2020年)秋期(開催日の決定・公表は令和2年(2020年)1月頃)

(2) 参加人員及び内訳

区 分	人 数	内 訳
中央・道外参加者	約 1,000 人	中央推薦、各都府県知事推薦等
道内参加者	約 2,500 人	実行委員会長選考、各市町村長推薦、一般公募等
出演者・運営スタッフ	約 1,500 人	出演団体、式典音楽隊、実施本部員等
合 計	約 5,000 人	

(3) 会場

北海道立総合体育センター
(北海きたえーる)【札幌市豊平区】



地下鉄東豊線「豊平公園駅」直結(徒歩3分)
屋内施設であるため、荒天時の式典会場は別に設けません。

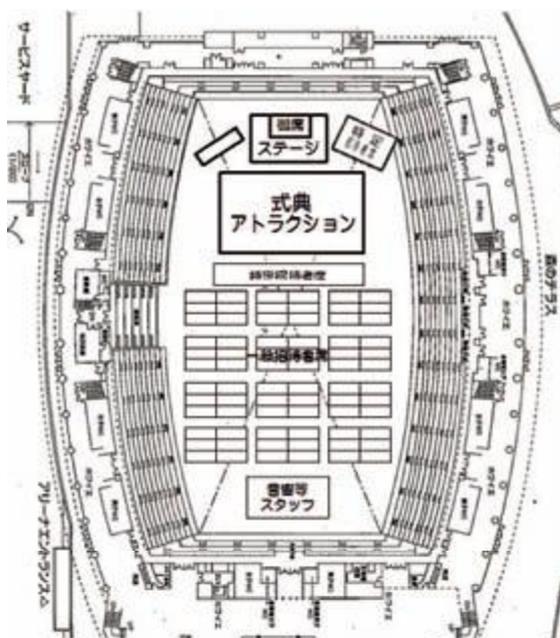
式典会場イメージ



会場：北海きたえーる
行事：北海道150年記念式典
撮影：H30.8.4(式典前日)

(4) 次第

項 目	説 明
1 プロローグ	
(1) オープニングアトラクション	歓迎の意を込めたアトラクションを企画
(2) お手入れ行事紹介映像	式典前日に開催したお手入れ行事の様子を紹介
(3) 北海道紹介映像	育樹等行事など木育の取組を含めて北海道を紹介
2 式典[皇族殿下御臨席]	
(1) 皇族殿下御着	北海道知事の先導
(2) 開会のことば	国土緑化推進機構 副理事長
(3) 三旗入場・緑の少年団入場	
(4) 国歌斉唱・三旗掲揚	
(5) 主催者挨拶	参議院議長(大会会長)、北海道知事
(6) 歓迎のことば	北海道議会議長
(7) 皇族殿下のおことば	
(8) 表彰	緑化功労者等に感謝状を贈呈
(9) 緑の贈呈	全国緑の少年団に記念品を贈呈
(10) 緑の少年団活動発表	全国緑の少年団を代表しての活動発表
(11) メインアトラクション	参加者の記憶に残る北海道らしいアトラクションを企画
(12) 大会宣言	国土緑化推進機構 理事長
(13) 次期開催県あいさつ	(未定)
(14) 閉会のことば	札幌市長
(15) 皇族殿下御発	
3 エピローグ	
(1) エンディングアトラクション	感謝の意を込めたアトラクションを企画



式典会場レイアウトイメージ

- レイアウトイメージは2階平面図を使用(既設観客席あり)しています。
- ステージや招待者席等の仮設物は1階に配置します。
- アトラクションの内容等によりレイアウトは大きく変更することがあります。

3 式典会場整備

式典の会場は北海道立総合体育センター（北海きたえーる）を使用します。屋内施設のメリットを活かした音響・照明等により演出効果を高める会場づくりを行います。

また、既存の施設や設備を最大限利用することで、コストの低減を図りつつ、全国の緑化行事にふさわしく、ステージやバックパネル等については、道産材を積極的に活用します。

項目	説明
御席及びステージ等の製作・設置	御席は、皇族殿下が御臨席になられる式典会場のシンボルとして規格、仕様及び配置を計画します。ステージやバックパネルは御席と一体感のあるデザインとし、会場全体との調和に心がけて製作・設置します。ステージやバックパネルの製作にあたっては、道産材を活用します。
金属探知機の設置	安全・セキュリティーを確保するため、警戒エリアを設定して金属探知機による入場管理を徹底します。
案内所・案内誘導サインの設置	案内所を設置するとともに、参加者を入場から着席まで円滑に誘導し、おもてなし広場やトイレなど会場の配置を把握するための案内誘導サインを設置します。
飾り花の設置	会場全体を彩るため会場内のステージやエントランス等に道産の飾り花を設置します。プランターカバーにはカラマツやトドマツなど道産材を活用します。
その他仮設物の設置	椅子などの施設備品や、屋外に設置するテントなど汎用性が高くリース可能な仮設物は、経済性を考慮して、原則、既製品を使用します。既存の施設で不足が生じる場合は、衛生面に十分配慮しながら必要な仮設トイレ等を設置します。
その他の措置	電源、音響、照明及び映像等の既存設備で不足が生じる場合は、増設するなど適切に対応します。

第42回全国育樹祭【東京都】＜式典行事会場＞（H30.11.18）



御席とバックパネル



金属探知機の様子

4 おもてなし広場

北海道の「木育を体感」できるよう、式典会場に木製遊具・木製品の展示や木工体験ができる木育コーナーを設置します。また、農産物や海産物など北海道の自然の恵みを堪能できる飲食物の提供や、北海道の魅力を発信する観光等のPRを実施します。

なお、おもてなし広場は、出展者と協力して廃棄物の減量化に取り組むなど環境に優しい運営に努めます。

項目	説明
木育コーナー	木製遊具・木製品の展示のほか、木育マイスター等による木工体験ブースの設置、取組事例や施設の紹介パネルの展示、DVDの上映など北海道の木育コーナーを計画します。
飲食コーナー	道内で穫れた農産物や海産物など北海道の秋の味覚を堪能でき、食育と木育の連携企画も取り入れた飲食コーナーを計画します。 飲食コーナーでは特産品・加工品などの紹介・販売ブースも設けます。
観光コーナー	北海道観光名所等のパネル展示やイベントカレンダー、四季折々の北海道の自然等を紹介するDVDの上映など北海道の見どころ情報を発信する観光コーナーを計画します。
ミニステージ	北海道の伝統芸能や、パフォーマンスアートの実演など参加者の心に残るミニステージを計画します。
その他	参加者がくつろげる空間を確保するため、案内所、湯茶提供ブース、休憩所の設置を計画します。



第42回全国育樹祭【東京都】〈式典会場のおもてなし広場〉（H30.11.18）



木育コーナーのイメージ（H30.7 木育フェア in アリオ札幌の様子）

1 基本的な考え方

お手入れ行事は、平成19年の第58回全国植樹祭の式典会場となった場所(通称「苫東・和みの森」)において、天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされるといふ育樹の実践を通して「継続して森を守り育てることの大切さ」を全国に発信します。

なお、荒天の場合、お手入れ行事は中止します。

■ 苫東・和みの森
 平成19年、日本最大の産業地域である苫小牧東部地域産業用地(苫東)において第58回全国植樹祭が開催されました。その後、その会場は「苫東・和みの森」と称され、参加者記念植樹で植えられた樹木は、10年以上にわたってボランティア団体などが下草刈り、除伐等の保育管理を行ってきました。また、式典会場となった場所には、お野立て所の構造部が開催記念のモニュメントとして残され、木育イベント会場のシンボルとして地域の方々に親しまれています。

2 お手入れ行事の概要

(1) 開催日

式典行事の前日

(2) 行事参加者

約200人

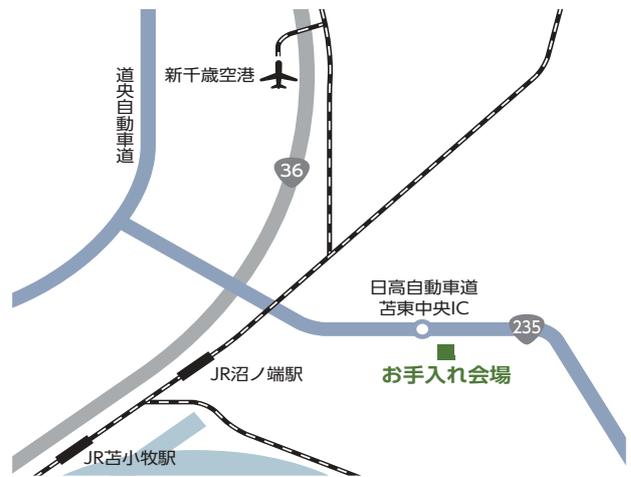
(大会会長(参議院議長)、農林水産大臣、林野庁長官、国土緑化推進機構理事長等)

(3) 会場

苫小牧市字静川(苫東・和みの森)



イベント開催時の様子(H29.9)



(4) 次第

項目	説	明
1 記念育樹活動	大会会長等による施肥等の育樹活動を行います。	
2 お手入れ行事	※ 15分程度	
(1)皇族殿下 御着	大会会長、国土緑化推進機構理事長、北海道知事などによりお出迎えします。	
(2)パネル展示 御覧	第12回全国植樹祭、第11回全国育樹祭及び第58回全国植樹祭の様子やお手植え樹木の生育状況などを北海道知事が説明します。	
(3)お手入れ	皇族殿下により、天皇皇后両陛下のお手植えのアカエゾマツ等の樹木に枝打ちや施肥などのお手入れがされます。	
(4)皇族殿下 御発	北海道知事が先導し、お出迎え者等によりお見送ります。	

3 お手入れ会場整備

お手入れ会場は、第58回全国植樹祭で式典が行われた会場を使用します。

また、会場の整備にあたっては、既存の道路や駐車場を利用することで周辺の景観や環境に十分配慮するとともに、必要な仮設物の設置と会場及び周辺の美化・清掃を行います。

項目	説明
お手入れ会場	全国植樹祭開催時に設置した木杭の撤去や芝張りなど必要な整備を行います。
道路等の整備	皇族殿下がご乗車されるお車、行事参加者の送迎車両等の安全な走行に必要な道路と駐車場の整備を行います。 道路等の工作物は、現有施設の利用を基本として計画します。
テント等の設置	行事開催に必要なテントや説明パネル等仮設物の設置を計画します。 説明パネル台の製作にあたっては第12回全国植樹祭で参加者が植栽したアカエゾマツを使用します。
飾り花の設置	会場を彩り、動線を確認するため道産の飾り花を設置します。プランターカバーにはカラマツやトドマツなど道産材を積極的に活用します。
案内誘導サインの設置	参加者が安全かつ円滑にお手入れ行事に参加することができるよう案内誘導サインを設置します。
電気・給排水設備等の設置	お手入れ会場には既存の電源、水道がないことからトイレ等必要な仮設物を設置します。
その他の措置	お手入れ行事終了後、お手入れ樹木の保護を目的として、木柵等を設置します。

第42回全国育樹祭【東京都】〈お手入れ行事〉(H30.11.17)



お手入れの御様子(左:枝打ち、右:施肥)



パネル展示御覧



飾り花と木製プランターカバー

1 基本的な考え方

育樹等行事は、より多くの方々と育樹の大切さへの思いを共有し、道民との協働による森林づくりを一層進められるよう、広大で多様な森林を有し、木育の発祥の地でもある北海道の様々な特色を活かしながら、全道6つの圏域において実施します。

また、その後も全道各地での育樹活動や木育イベントなどの取組が継続・発展していく契機となるよう、環境や教育、食育など幅広い関連行事等との連携のほか、行事の企画・立案段階から市町村や森林組合、地元企業のほか、教育関係者・木育マイスター等と連携しながら準備を進めます。

2 育樹等行事の概要

(1) 開催期間

令和元年(2019年)秋期から令和2年(2020年)秋期まで

(2) 会場

道央圏、道南圏、道北圏、オホーツク圏、十勝圏及び釧路・根室圏の6圏域を基本の単位として計画します。

なお、第58回全国植樹祭の開催地であり、お手入れ行事の開催地でもある苫小牧市字静川(苫東・和みの森)をメイン会場とします。

(3) 行事内容

圏域名 (総合)振興局	コ ン セ プ ト
道央圏 (空知・後志・胆振 石狩・日高)	苫東・和みの森において、全道の木育マイスターが集うシンボリックなイベントを行うとともに、圏域内で行われる育樹等行事(植樹～下刈り～育樹、木育プログラム)を巡りながら体験することで、森林づくりの一連の流れや育樹の重要性・必要性の理解を深め、 未来の森林づくり につなげる。
道南圏 (渡島・檜山)	スギ、ヒノキアスナロなど、暮らしの中で親しまれている 道南圏域特有の木や森 を体感することをテーマに、木育マイスターや地元企業、関係団体等と連携した植樹、育樹、木工体験などを通じて、道南の風土に合った森林づくりを進める。
道北圏 (上川・宗谷・留萌)	北海道遺産の旭川家具、湿原等の景勝地や見どころのある森林、多様で活発な木育マイスターの活動など、道北圏域の潜在力と魅力を活かし、どの世代にも親しみやすく、 雄大な森をまるごと体感 できるイベントを実施し、次世代を担う子どもや児童・生徒の参加と幅広い世代間の交流による森林づくりを進める。
オホーツク圏 (オホーツク)	木育関係施設が多数存在するオホーツク圏域の特徴を活かし、木育マイスターや各市町村等との連携により、地域全体の取組として、木と触れ合う木育体験や緑に親しむ育樹活動などを組み合わせたイベントを実施することで、 木の王国 オホーツクならではの森林づくりを進める。
十勝圏 (十勝)	「植えて、育てて、伐って使って、また植える」森林資源の循環利用の取組を、木育マイスターのネットワーク等と連携し、地域の行動として進めていく「(仮称) 木育の森づくり 」の実践を通じて、その意義を発信し、地域住民の参加による「木育の森づくり」を進める。
釧路・根室圏 (釧路・根室)	酪農や水産業が盛んな地域の環境を守るため、植樹の取組が盛んに行われており、その取組に枝打ちなどの育樹活動を組み合わせたイベントを木育マイスターのネットワーク等と連携して実施するとともに、エゾシカ被害に対応した植樹や育樹の手法の紹介を通じて、 自然との共生 を図った森林づくりを進める。

(4) その他

育樹等行事の開催概要を録画・編集して、北海道の紹介映像とともに、式典演出のプログラム等で放映します。

1 レセプションの概要

レセプションは、皇族殿下の御臨席を仰ぎ、大会関係者を招待して、全国育樹祭での各種表彰者に祝意を表す場として開催します。

- (1) 開催日
式典行事の前日
- (2) 会場
札幌市内ホテル
- (3) 行事参加者
300人程度

主な参加者
皇族殿下
大会会長（参議院議長）、農林水産大臣、林野庁長官、
国土緑化推進機構理事長
北海道知事、道議会議長、行事開催等関係市長、
緑化功労者、道内関係団体・企業等代表者 など



第42回全国育樹祭【東京都】〈レセプション〉（H30.11.17）

1 育林技術交流集会

育林技術交流集会は、林業関係者はもとより、次代を担う大学生や高校生、ボランティア団体など、森林・林業に関心の高い人たちを対象として、森林づくりや林業の成長産業化等をテーマに講演等を行います。

区 分	内 容
主 催	北海道、国土緑化推進機構
開 催 日	式典行事の前日
開催場所	式典行事の近接地域（札幌市）で選定
参加人員	約 500 人
行事内容	基調講演、パネルディスカッション等

2 全国緑の少年団活動発表大会

全国緑の少年団活動発表大会は、道内及び全国から選出された緑の少年団を対象として、日頃の活動状況の発表や情報交換を行い、意識の向上を図ります。

また、活動発表大会終了後、別会場に移動してレクリエーション等を行い、緑の少年団相互の交流を深めます。

区 分	内 容
主 催	北海道、国土緑化推進機構
開 催 日	式典行事の前日
全国緑の少年団活動発表大会	
開催場所	式典行事の近接地域（札幌市）で選定
参加人員	約 500 人
行事内容	活動発表、各種表彰、特別講演等
全国緑の少年団交流集会	
開催場所	式典行事の近接地域（札幌市）で選定
参加人員	約 200 人
行事内容	レクリエーション等

第42回全国育樹祭【東京都】〈併催行事〉（H30.11.17）



育林交流集会



全国緑の少年団活動発表大会

1 森林・林業・環境機械展示実演会

森林・林業・環境機械展示実演会は、機械化による林業労働の省力化と生産性の向上等を関係者に一層普及するとともに、将来の森林づくりの担い手である高校生等や一般参加者の理解を深めるため、全国の林業機械メーカーによる最新林業機械等の展示・実演を行います。

区 分	内 容
主 催	北海道、林業機械化協会
開 催 日	式典行事の当日及び翌日
開催場所	苫小牧東部地域
参加人員	約 5,000 人
行事内容	高性能林業機械等の展示実演 等

2 国民参加の森林づくりシンポジウム

国民参加の森林づくりシンポジウムは、一般参加者を対象に第 44 回全国育樹祭の 1 年前記念行事として、基調講演やパネルディスカッション等を行います。

開催にあたっては、「北海道植樹の日・育樹の日条例」の育樹の日(R1.10.19)に開催予定の「第 70 回北海道植樹祭・育樹祭」や木育マイスターが主導する木育を体感できるイベント等と連携し、森林づくりや木育活動への参加の動機づけとなる内容を計画します。

区 分	内 容
主 催	北海道、国土緑化推進機構、森林文化協会、朝日新聞社
開 催 日	令和元年(2019年)10月12日(土) (1年前記念行事)
開催場所	北海道大学高等教育推進機構 大講堂
参加人員	約 450 人
行事内容	基調講演、パネルディスカッション 等

3 その他の記念行事

「北海道・木育フェスタ」など北海道が実施する植樹祭等の緑化イベントや環境関連行事等のほか、市町村や関係団体等が実施するイベント等を全国育樹祭の記念行事と位置づけ、全国育樹祭の開催気運醸成のための取組を進めます。



他県の記念行事の様子
(左：林業機械展示実演会【H30 東京都】、右：森林づくりシンポジウム【H30 沖縄県】)

1 基本的な考え方

皇族殿下の御臨席を仰ぎ、道内外から約 5,000 人が集う大きな全国行事であることから、安全の確保を最優先とし、参加される方が安心かつ快適に時間と空間を共有できる「おもてなし」の配慮が行き届いた運営を行います。

また、大会の運営にあたっては、関係機関や団体と緊密な連携・協力のもと、不測の事態にも適切に対応できる体制を整備します。

2 実施本部計画

全国育樹祭の式典等を円滑に実施・運営するための実行組織として、令和 2 年度(2020 年度)に「第 44 回全国育樹祭北海道実施本部」を設置します。

3 緊急対応計画

自然災害等の非常事態や、荒天時のお手入れ行事の実施判断など緊急時の体制を整備するとともに対応フローを作成します。

4 参加者行動計画

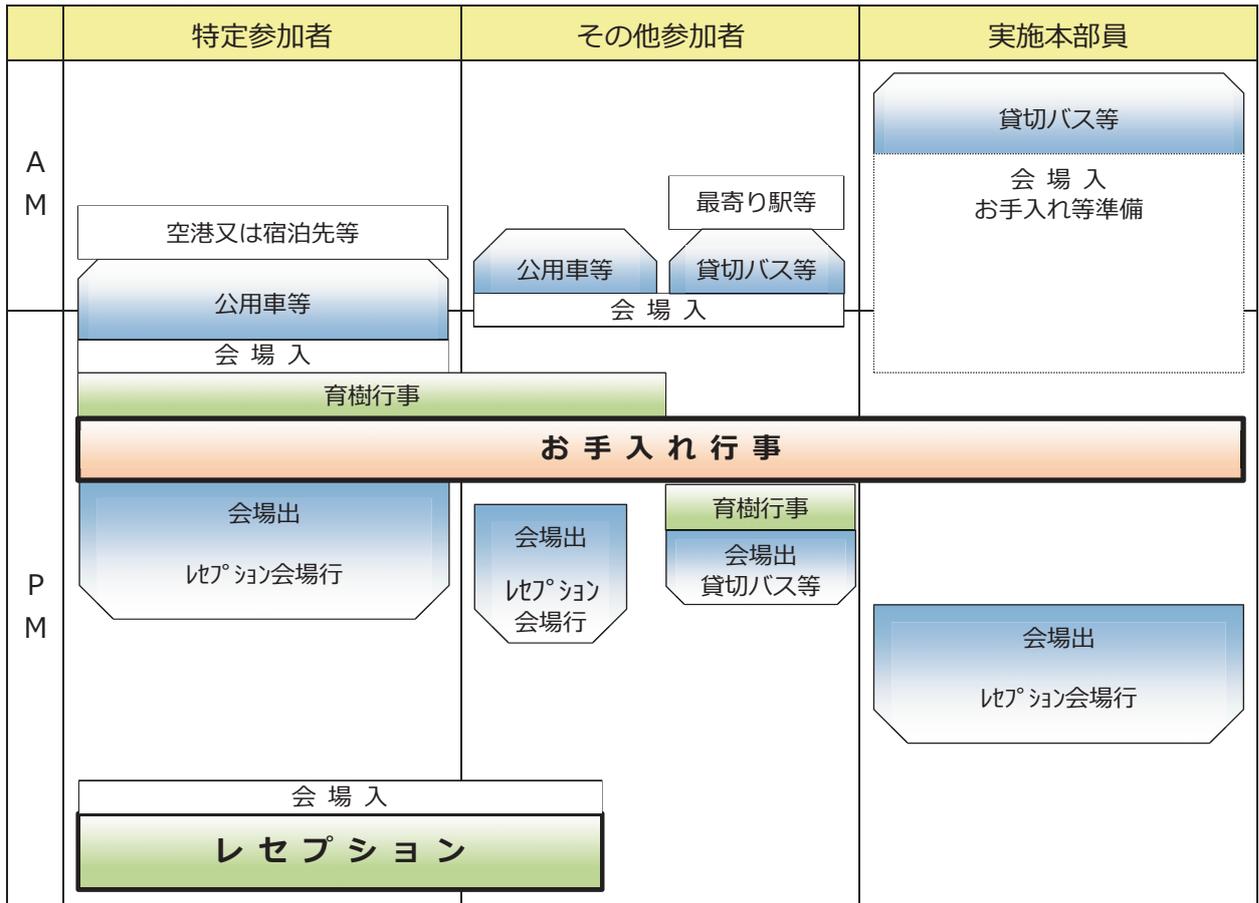
(1) 式典行事

	特定参加者	道外参加者	道内参加者			実施本部員 出演者等
			札幌市近郊	道央圏	道央圏以外	
A M	公用車等	宿泊地発 貸切バス	公共交通機関	貸切バス	宿泊地発 貸切バス	貸切バス等 会場入 式典準備
	会場入					
	プロローグ					
式典行事						
P M	会場出	エピローグ				
	昼食 会場出	昼食	昼食			
	会場出 貸切バス	会場出 貸切バス	会場出 解散	会場出 貸切バス	会場出 貸切バス	会場出 貸切バス等

※ 道内参加者の宿泊の有無については、地域の交通事情等により別途調整します。

※ 特定参加者は、参議院議長(大会会長)、農林水産大臣、林野庁長官、国土緑化推進機構理事長、北海道知事、北海道議会議長、次期開催県知事、次期開催県議会議長など行事であいさつや贈呈など役割のある大会関係者をいいます。

(2) お手入れ行事等



※ 参加者行動計画は、現時点での想定で変更する場合があります。

5 受付計画

(1) 宿泊者（道外・道内(道央圏以外)）

受付日時	受付場所	受付内容
式典前日(到着時)	宿泊施設	案内状確認、本人照合 ルームキー配布、大会用品等配布、留意事項等説明
式典当日(出発前)	バス乗車口	乗車名簿照合、本人照合 IDカードの携行等案内

(2) 当日貸切バス利用者（道内(道央圏)）

受付日時	受付場所	受付内容
式典当日(出発前)	バス乗り場	案内状確認、乗車名簿照合、本人照合 大会用品等配布、IDカードの携行等案内
	バス乗車後	留意事項等説明

(3) 公共交通機関利用者（道内(札幌市近郊)）

受付日時	受付場所	受付内容
式典当日(入場時)	会場	案内状確認、本人照合 識別用品等配布、IDカードの携行等案内 留意事項等説明

6 宿泊・輸送計画

(1) 輸送

道外及び札幌市近郊以外の道内の参加者は、貸切バス等の指定車両の利用を原則とし、札幌市近郊の道内参加者は公共交通機関の利用を原則とします。

区 分	内 容	
輸送方法	宿泊の有無や会場までの移動距離等に応じて円滑かつ確実な輸送に努めます。	
式典行事参加者		
道 外	実行委員会が手配するバスを利用して指定宿泊施設から会場に移動 (※特定参加者は公用車等を利用)	
道 内	札幌市近郊	公共交通機関を利用して会場に移動
	道央圏	実行委員会が手配するバスを利用して会場に移動
	道央圏以外	実行委員会が手配するバスを利用して指定宿泊施設から会場に移動
お手入れ行事参加者		
道 外	実行委員会が手配するバスを利用して指定集合場所から会場に移動 (※特定参加者は公用車等を利用)	
道 内	実行委員会が手配するバスを利用して最寄り駅等から会場に移動	
輸送管理体制	バス乗車名簿を作成して乗車確認を行い、乗車中は案内等の接遇に努めます。安全で円滑な運行のため、必要な箇所に車両誘導員を配置します。	
緊急時の対応	事前に非常時連絡体制を整えるとともに、輸送ルート上の事故に備え、緊急時の代替ルートを設定します。	

(2) 駐車場

参加者の円滑な輸送を行うため、式典会場、お手入れ会場及び会場周辺にバスや公用車等の駐車場を確保します。

(3) 宿泊

道外及び道央圏以外の式典参加者は、式典前日に実行委員会が指定する施設に宿泊することを原則とします。

区 分	内 容	
宿泊予定者	約 2,000 人 (中央・道外：約 1,000 人、道内(道央圏以外)：約 1,000 人)	
宿泊予定地	札幌市内及び近郊 (貸切バス等での移動時間が 2 時間程度以内)	
そ の 他	宿泊施設ごとに実施本部員を配置し、宿泊者名簿を作成の上、到着時(式典前日)に受付を行います。 受付等にあたっては、施設関係者と連携して緊急時を含めた対応マニュアルを作成の上、迅速かつ適切に対応する体制を整えます。	

7 式典参加者計画

森林・林業・木材産業関係者をはじめ、緑の少年団やボランティア団体関係者のほか、一般公募による参加者など、幅広い参加を求めます。

区 分	内 容
中央・道外参加者	・省庁関係者、国土緑化推進機構関係者、諸団体関係者等 ・都府県関係者、地方緑化推進委員会関係者等
道内参加者	・道関係者、市町村関係者、実行委員会委員、森林・林業・木材産業関係者、木育マイスター、ボランティア団体関係者等 ・一般公募
出演者・運営スタッフ	・出演者(緑の少年団など)・出展者、式典音楽隊、式典協力員(ボランティア・介添え)、式典運営受託業者等、実施本部員

8 警衛・警護計画

北海道内での移動や、式典及びお手入れ会場での事件・事故を防止し、円滑な運営を図るため、北海道警察本部と連携・協力して、警衛・警護に万全を期します。

式典及びお手入れ会場の入場ゲートに金属探知機を設置し、参加者を適切に誘導の上、持ち物検査や入場者の確認を行います。

また、仮設物等については、設置してから撤去するまでの間、必要に応じて夜間警備員を配置するなど、無許可者の侵入やいたずら防止に努めます。

9 救護・衛生計画

(1) 救護

式典等の会場において、傷病等の発生に備えるため、救護体制を整えます。

区 分	説 明
救護所の設置	傷病者の医療・救護を行うため、式典会場等に医薬品や休憩用ベッドを備えた救護所を設置します。
搬送体制の整備	消防署や医療機関の協力を得て、緊急時の搬送体制を整えます。
対応フローの作成	式典等の会場や宿泊施設、輸送時に傷病者が発生した場合、素早く的確に加療にあたるよう、医療・救護対応フローを作成します。

(2) 衛生

会場等で提供する食品や利用する施設は、保健所等の協力を得て衛生対策体制を整えます。

区 分	説 明
食品衛生の対策	飲食等による事故の防止を図るため、弁当や会場内の食品提供者への指導を徹底します。
環境衛生の対策	式典等の会場や宿泊施設の関係者と協議を行い、環境衛生対策に万全を期します。
そ の 他	飲食等により発生する廃棄物の適切な処理や会場の清掃を行い、会場及び周辺的环境美化に努めます。

10 消防・防災計画

消防等の関係機関と緊密な連携のもと、万一の火災や地震等の自然災害などの緊急事態に備え、責任者を明確にするとともに対応フローや避難計画を作成します。

11 昼食計画

道産の農・水産品を使用して北海道の味覚を満喫できる献立とし、メニューの選定においては、食材や調理方法など十分な検討を行います。

弁当の製造から輸送、保管、配布に至るまで徹底した衛生管理を行うとともに、容器や包装資材については、環境に配慮したものを使用します。



第42回全国育樹祭【東京都】の配布弁当

12 大会用品等配布計画

式典参加者には、式典プログラムや識別用リストバンドなどの大会用品のほか、全国緑化行事にふさわしい道産木製品や北海道らしい品物で、遠方からの参加者が持ち帰りやすい記念品を選定して配布します。



第42回全国育樹祭【東京都】の式典参加者配布用品等

13 リハーサル計画

実施本部員が自らの業務内容を把握できるよう各班単位の「運営マニュアル」を作成し、出演者代表への効果的な説明会や出演者を含めたリハーサルを実施します。

区 分	時 期	場 所	参 加 者	内 容
出 演 者 説 明 会	約 4 カ月前	未 定	出演者代表	式典概要、参加内容説明
合同説明会	約 3 ヶ月前	未 定	実施本部員 出演者代表	式典全体説明
式 典 リハーサル	約 1 ～ 2 カ月前	式典会場	実施本部員 出演者(介添者)	式典の個別リハーサル
総 合 リハーサル		関係会場	実施本部員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修等
お 手 入 れ リハーサル	約 1 週間前	お手入れ 会 場	実施本部員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修等
お手入れ前日 リハーサル	お手入れ 前日	お手入れ 会 場	実施本部員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修等
式 典 前 日 リハーサル	式典前日	式典会場	実施本部員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修等

※必要に応じて、説明会や練習会、各リハーサルを追加して開催します。

14 雨天・荒天時等対応計画

行事中止の判断基準となるガイドラインの設定のほか、構成員の招集方法を定め、荒天時等の開催可否を判定するための「(仮称)判定会議」を設置します。

行事名	天候	対応	説 明
式典行事	晴 天	開催	計画に基づき開催します。
	雨 天 及び 荒 天		屋内会場のため開催します。 ただし、台風が接近した場合等参加者の安全輸送に支障を来す恐れがある場合にはプログラムの変更や規模縮小、開催中止を状況に応じて判断します。
お手入れ 行 事	晴 天	開催	計画に基づき開催します。
	雨 天		晴天時と同様に行事を開催します。
	荒 天	中止	屋外会場のため行事を中止します。

※ 大規模な地震等の緊急事態が発生した場合は大会を中止します。

1 基本的な考え方

第44回全国育樹祭の開催気運を醸成し、北海道の森林が私たちにもたらす恩恵や、木の持つ優しさ・温もりを多くの道民に啓発するとともに、育樹祭終了後も道民が開催意義を継承し、引き続き、森や木に触れ合うことができ、日頃から木を使う意識が根付くよう広報活動を実施します。

2 広報・PR

道の取組はもとより市町村等と連携しながら、大会テーマである「つなごう未来へ この木 この森 この緑」や木育の取組等について、広く普及・浸透を図ります。

区 分	説 明
各種イベントとの連携	道内各地で開催される植樹祭や、森林体験学習、木工教室などの木育イベントに加え、環境関連行事や記念事業などと連携し、説明パネルやポスター等を活用しながら、道民に向けて参加・参画への呼びかけを行います。
広報媒体の活用	広報誌や新聞、テレビ、ラジオなど多様な広報媒体を利用するほか、全国育樹祭用のホームページ等を活用して適時に広報活動を実施します。

3 記録

第44回全国育樹祭の開催記録を保存するために、記録誌やDVD等を製作します。

4 協賛

第44回全国育樹祭の開催方針に賛同する企業や団体、個人を対象に、実行委員会等に対する物品、役務及び金銭の提供、広報・PRへの協力等の協賛を募集します。

区 分	内 容
物品提供	式典会場等に設置するステージ等仮設物に利用する木材、木製品 式典等参加者に配布する飲料等の物品 等
役務提供	育樹等行事の会場整備 式典会場等への資機材運搬・設置・撤去 会場内の案内・誘導 等
金銭提供	式典会場等に設置する飾り花や木製プランターカバーの製作資金 参加者に配布する木製品等の記念品購入費 大会開催前後に実施する関連イベント等の開催経費 等
広報協力	全国育樹祭行事、併催行事及び記念行事開催ポスターの掲示 行事開催特集記事の掲載 等

1 開催スケジュール

令和元年度(2019 年度)にはイベントの開催や会場整備のほか実施計画を策定し、令和 2 年度(2020 年度)にはリハーサル等の開催準備を行うなど計画的に準備を進めていきます。

時 期	内 容
令和元年度 (2019 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● お手入れ会場整備等(通年) ● 1 年前記念行事「国民参加の森林づくりシンポジウム」の開催(10 月) ● 育樹等行事の開催(前年度秋期から開催年度秋期まで) ● 第 43 回全国育樹祭 <沖縄県> での次期開催地知事挨拶(12/14~15) ● 開催日程の決定・公表(1 月頃) ● 実施計画作成(3 月頃)
令和 2 年度 (2020 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場整備(行事開催まで) ● 第 44 回全国育樹祭北海道実施本部設置(4 月頃) ● 育樹等行事の開催(前年度秋期から開催年度秋期まで) ● 一般参加者募集(5 月頃) ● リハーサル(6 月以降適宜) ● 併催行事・記念行事(式典の開催前後) ◎ 第 44 回全国育樹祭の開催(秋期) ● 記録誌の発行(2 月頃)

第 44 回全国育樹祭基本計画

令和元年 6 月発行

編集・発行 第 44 回全国育樹祭北海道実行委員会

札幌市中央区北 3 条西 6 丁目（全国育樹祭推進室内）

連絡先 北海道水産林務部森林環境局全国育樹祭推進室

011-206-6563（ダイヤルイン）

